



心と心でつながる、世界に開かれたふくしま



# GYRO

FIA MAGAZINE



ジャイロ

VOL.  
121

平成28年3月号

ジャイロスコープ（羅針盤）の名称をとって、広報紙「ジャイロ」の名称としています。

## CONTENTS

- P.3 福島から世界へ！  
海外ボランティアインターンシップに参加して  
～吉田繭さん、阪本唯さん（福島大学3年）～
- P.4 Voice from Foreigners in Fukushima  
～ヨースト・クラルトさん（オランダ出身）～
- P.5 事業Report  
～日本語学習支援ネットワーク会議2015 in Fukushima、  
第24回全国ボランティアフェスティバルふくしま～
- P.6 理事長就任あいさつ  
～福島県国際交流協会理事長 今野順夫～
- P.7 FIA Information

コラム

くスコットランドの伝統料理・ハギスく  
(車販売店「パワービークルズ」経営)

アンドリュー・グレイさん  
エミリー・グレイさん

Interview with Foreigners

P.1

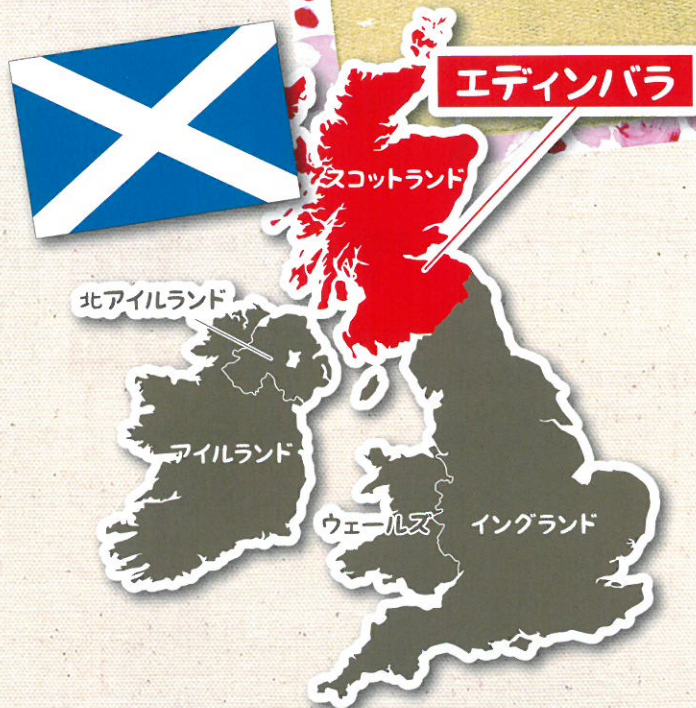
風車の国オランダから



## Interview with Foreigners

# Andrew Gray (アンドリュー・グレイ) さん Emily Gray (エミリー・グレイ) さん

三本松市のエビスサーキットの傍らで車の販売店を営むアンドリューさん夫妻。アンドリューさん夫妻が扱っているのは、ただの車ではなく、そのほとんどが、タイヤを滑らせながらコーナーを走る“ドリフト”用の車です。車、ドリフト、そして、三本松が大好きなアンドリュー夫妻にお話を伺いました。



アンドリューさん(右)とエミリーさん(左)  
・スコットランド(エディンバラ)出身  
・車販売店「パワービークルズ」経営(二本松市)  
・福島県滞在歴7年

### 現在に至るまで

以前は、東京や埼玉で車の輸出に関する仕事をしていました。車とドリフトが大好きで、それを仕事にしながら楽しみたいと思い、福島に来ました。毎日ドリフトが出来るサーキットは、世界的に見ても少ないので、今の仕事をすごく気に入っています。



### 仕事について

車の輸出、販売の他、エビスサーキットにドリフトを楽しみに来る人のサポートやペンションの経営もしています。エビスサーキットでイベントがあり、国内外から多くの人がある際には、私のペンションでお世話をしています。車はドリフトが出来るように、私が部品をばらしたり組み立てたりして改造します。日本の車はとても性能が良いとつくづく思います。

会社を経営していると思うことは、手続きの煩雑さです。銀行や税金関係等、複雑な手続きがたくさんあります。外国人は皆同様の苦勞があるかもしれませんが、私の友人は日本人と結婚している人が多いので、日本の事情を知っていて日本語も問題ない配偶者のサポートが受けられるという点で、うらやましく思う時があります。実際、私たちは起業に至るまでに2年程かかりました。現在も前職で知り合った日本人にサポートしてもらいながら、日々がんばっています。

## 日本で生活して

私たちの故郷も自然が豊かな町なので、山や川が大好きです。福島にはとても親近感があります。経営するペンションは、宿泊のみで食事までは提供できないので、お客さんが来た際には、近隣の居酒屋や日本食レストランによく行きます。特に外国人のお客さんが来た時には、日本の料理を食べて欲しいと思っているので、積極的に案内しています。おかげで、地元の居酒屋では常連客になりましたよ！また、エビスサーキットで開催されるイベントには、世界中から人々が集まり、国籍を問わず仲良くなれるので、人脈がすごく広がりました。ドリフトをしなくても、英語が上手に話せなくても大丈夫です。少しでも興味がある人や、英語を話したいなあと思う人は、気軽にイベントに参加して欲しいです。国際交流は、いつでも、身近なところから出来ると思います。

今では国内外から多くの人がエビスサーキットに来るようになりましたが、震災直後は全く来ませんでした。私は、メディアで報道されていることがすべて真実であるとは思っていませんでしたが、海外からは、メディアからの情報により、ある意味勝手な、ある意味思い込みのような感覚で、福島は危険であると思われるような気がします。そこで、放射線量を自分で測定して、Facebook等で安全であることを発信しました。考えてみてください。私たちはここに住んでいるのです。そんなに危険な場所だとしたら、私たちだって住むことはできないわけですから。そのような情報発信の効果があったか、実際の放射線量をチェックしたり、情報を集めたりして、正しい認識を持ってくれる人が増えたと思っています。今では、震災前よりも多くの方が足を運んでくれるようになりました。



仲間たちと

## 日本の若者へのメッセージと将来への展望

最近の若い人は、車やドリフトに関心がない人が多くなっていますが、「なんでこんなにおもしろいののにドリフトやらないの〜」って感じで、もったいないと思います。車に関して言えば、日本には高い技術力があり、それを活かす環境も整っています。それと同じように、日本の若者には、自分の力を活かす環境が整っているのですから、若いうちに自分のやりたいことを見つけ、目標を定めて精一杯取り組むことが大事なのではないでしょうか。私は、ドリフト用の車の輸出を増やし、スタッフを雇って会社をさらに大きくしていきたいと思っています。私たちのお店に気軽に遊びに来て下さいね。



大会では賞もとりました

## Column

### コラム

スコットランドの伝統料理  
ハギス  
Haggis



ハギスというスコットランド料理をご存知ですか？ハギスは、茹でた羊の内臓（ミンチ）、オートムギ、たまねぎ、ハーブを刻んで牛脂と一緒に羊の胃袋に詰めて茹でる詰め物料理です。スコットランドではとても一般的で、肉屋で売られている他、缶詰にもなっています。主に夕食で、マッシュポテトなどと一緒に食べるそうです。日本食が大好きなアンドリューさん夫妻も時々母国のハギスが恋しくなるそうです。スコットランドを訪問した際には、ぜひハギスを食べてみてはいかがでしょうか。



# Report

## 福島から世界へ!

# 海外ボランティアインターンシップに参加して

～吉田繭さん、阪本唯さん(福島大学3年)～

福島大学3年の吉田繭さんと阪本唯さんは、平成27年の10月末から11月初めにかけて、9日間のカンボジアでの海外ボランティアインターンシップに参加し、カンボジア北西部のシェムリアップ州にあるトシレアップ村の小学校で、子ども達に日本語と英語を教えながら、ホームステイを通じて現地の生活を体験してきました。カンボジアでの体験について、お二人に話を伺いました。

※本研修は、当協会の平成27年度「次世代の海外研修への助成事業」による助成を受けて実施されました。

### 海外インターンシップに参加した動機

**吉田さん** 小学生の時に学校が不足しているカンボジアの学校建設の現場をテレビで見て、いつかはカンボジアに行って、教育活動に携わってみたいと思っていました。開発途上国の現場を自分の目で見てみたいと思っていたことも参加した理由の一つです。

**阪本さん** 私も、中学校の社会の授業で開発途上国について勉強してから、開発途上国の子どもたちのために何かしたい、何かできないかということを常々考えていましたが、カンボジアでボランティアが出来るプログラムがあることを知り、参加しました。



生徒達と折り紙しました(左が吉田さん)

### カンボジアでの生活

**吉田さん** ホストファミリーの子どもとは日本語でコミュニケーションが取れますが、親はカンボジアの公用語であるクメール語しか話せません。それでも、日本人ボランティアを優しく受け入れてくれ、不自由はありませんでした。共通の言語が話せなくても、通じ合えることを実感しました。

出発前、カンボジアの子どもたちは日本の子どもたちと比べて、勉強に意欲的であると聞いていました。しかし、実際には学校の授業で、勉強を嫌がることもありました。それでも、国は違っても子どもたちの純粋さは変わらず、多くの子どもたちが将来に夢を持っているのを感じました。その夢を実現させるために、私たちが支援することによって教育の環境を作っていくことが大切だと感じました。

**阪本さん** 田舎の小さな村ということで、みんなの仲が良く、私もすぐに打ち解けることができました。電気や水道・ガスも通ってない中での生活は大変なこともありましたが、井戸水で身体を洗ったり、満天の星空の下を皆で散歩したりと、とても貴重な体験ができたように思います。

私が訪れた学校の子どもの教科書を持っておらず、授業で書き取ったノートが教科書代わりになるため、皆一生懸命でした。子どもたちは1年生から日本語と英語を習っていますが、教えた英単語に日本語でふりがなをふっているのを見た時には驚きました。また、先に理解した子どもが分からない子どもに教えている姿を見て、心温まるものを感じました。休み時間には、日本の遊びをしたくさんの子どもたちと交流しましたが、以前ボランティアに入っていた日本人から折り紙や日本の歌を習った子どもも多く、私が知らない折り方や歌を反対に教えてもらうこともありました。子どもたちの何でも吸収してしまうスポンジのような学習能力には、感心させられるばかりでした。

### カンボジアでの経験から感じたことと今後の展望

**吉田さん** カンボジアの学校建設の現場をテレビで見ていた時には、すごく遠い存在に思っていたのですが、今はとても近く感じています。最初は不安でしたが、今は参加して本当に良かったと思います。また、同じ大学の阪本さんが偶然同じプログラムに参加していたことも心強かったです。近い将来、また訪問して子ども達に会いたいです。私は小学校の教員を目指しているので、教員になってこの経験を生徒に伝えたいと思っています。

**阪本さん** 主体的に考え、自ら行動しなければならない今回の研修は本当に有意義なものでした。一歩踏み出して実際に参加するには勇気が要りますが、私は、迷っているなら参加してしまおうと思いました。現地に行ってみて、何も得られないということは絶対にありませんから。私も、もう一度トシレアップ村に行って、成長した子ども達に会ってみたいと思っています。



ホストファミリーと記念撮影(左から二人目が阪本さん)

## ESSAY

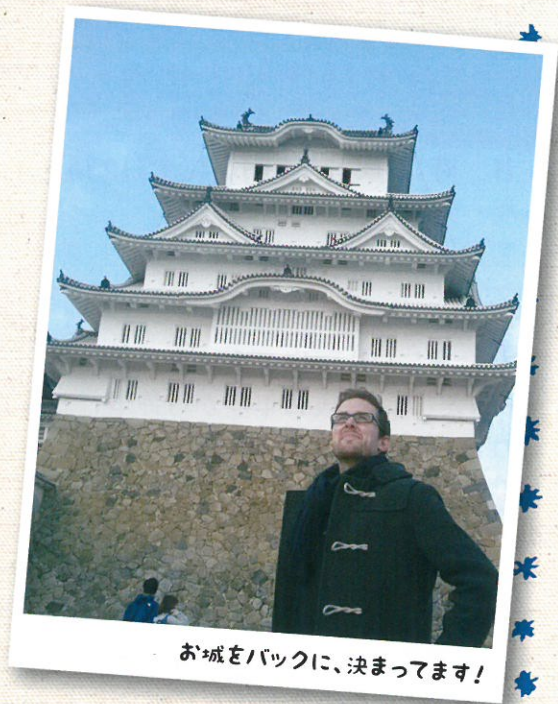
## Voice from Foreigners in Fukushima

ヨースト・クラルトさん(オランダ出身)

はじめまして!オランダから来たJoost Kralt(「よーすけ」じゃなくて「よーすと」)です!昨年の8月から郡山市役所の国際交流員(Coordinator for International Relations: CIR)として勤務しています。以前、留学とインターンで京都、大阪そして長崎に住んだことがあります。ずっと西日本ばかりで東北に来たのは初めてでした。

郡山市は、「楽都」と呼ばれていますが、私はバンドでボーカルをしていたので、この音楽の街郡山がとても気に入っています。

それから、福島 naturally の豊かさ魅力です。最も高い山の標高でも322メートルしかない平らなオランダから来た私には、磐梯山の山頂から見た「左は郡山、右は会津若松、そして真ん中に猪苗代湖」という風景は、一生忘れることができない美しいものでした。この美しい福島のありのままの姿を世界に発信していきますので、これからもよろしくをお願いします!



お城をバックに、決まっています!

Prettig kennis te maken! Mijn naam is Joost Kralt, en ik kom uit Nederland.

Ik werk sinds Augustus vorig jaar als Coördinator Internationale Betrekkingen (CIR) bij de gemeente Koriyama. Hiervoor heb ik als student en als stagiair gewoond in Kyoto, Osaka en Nagasaki, dus ik woon nu voor het eerst in het noordoosten van Japan.

Ik vind vooral de natuur en omgeving van Fukushima fantastisch. Omdat ik uit Nederland kom, waar de hoogste berg slechts 322 meter hoog is, was het uitzicht vanaf Mt. Bandai (links Koriyama, rechts Aizu-Wakamatsu en in het midden het meer Inawashiro), een uitzicht dat ik nooit meer zal vergeten. Dit is het Fukushima wat ik aan de wereld wil laten zien!



磐梯山頂にて

# Report

## 事業レポート

福島県国際交流協会では、様々な事業を実施していますが、本県が会場となった2つの催しについてレポートします。

### 日本語学習支援ネットワーク会議2015 in Fukushima

日時：平成27年10月3日(土)10:15~16:00  
場所：福島大学  
参加者：76名(うち県外19名)

この会議は、東北地方の日本語学習支援関係者を対象に、外国出身者の日本語学習支援をテーマとして、平成17年度から毎年行われてきたもので、今年度は福島県で開催されました。

会議では、(一社)グローバル人材サポート浜松の代表理事である堀永乃さんに、「多文化パワーと地域創生～未来をデザインする日本語支援～」というテーマで基調講演をしていただいた後、「学習者のための日本語教室とは?」「社会参加につなげる支援のあり方」「外国にルーツを持

つ子どもとその家族」の3つの分科会に分かれて意見交換を行いました。参加者の皆さんからは、改めて日本語教室活動の意義を考えることができたという声が多く寄せられました。

なお、会議の実施にあたっては、県内各地の10名の日本語ボランティアの皆さんに、運営委員として企画段階からご協力をいただきました。



### 第24回全国ボランティアフェスティバル

(分科会「やさしい日本語ワークショップ～誰にとっても易しく優しいコミュニケーションの手段～」)

日時：平成27年11月21日(土)～22日(日)  
場所：ビッグパレットふくしま  
分科会参加者：16名

このフェスティバルは、各県持ち回り方式で行われているボランティア活動者の全国的な情報交換・研究協議を目的とした大会で、今年度は福島県で開催されました。県内外の約1,600名の皆さんが、基調講演、分科会、交流会、シンポジウムなどに参

加しました。当協会では、第2日目に行われた分科会の一つを担当しましたが、この分科会では、東海日本語ネットワーク副代表の米勢治子さんから、「やさしい日本語」の持つ意義やその基本的な作り方を学んだ後、町内会で実際に配布された3つのお知らせ文を、6名の外国出身者の方々と一緒にわかりやすい日本語に直すワークショップを行いました。

分科会に参加した皆さんには、外国出身者とコミュニケーションをとる際にはちょっとした配慮でできる「やさしい日本語」という手段もあることや、外国出身者にとってわかりやすい日本語は、子どもやお年寄りなどにとってもわかりやすいことなどに気付いてもらうことができました。



## 理事長就任あいさつ

昨年末から理事長を務めている今野順夫です。微力ながら、国際交流の進展に努力したいと思います。

若い時期に、研究の目的で、ドイツ（西ドイツ時代）に1年ほど滞在したことはありますが、それ以外は、勤務していた福島大学の仕事として、特にアジア諸国の大学との交流協定を締結するために、訪ねる機会がありました。中国の河北大学と華東師範大学、ベトナムのハノイ人文社会科学大学、韓国の韓国外国語大学校、台湾の国立台北大学です。いずれも短期間ですが、それぞれの国の事情にささやかながら接することができました。

いずれの国も長い歴史の中で培われてきた文化があり、その驚きと感動の連続でしたが、外国で初めて日本の国のことを知ることが多かったと思います。外国出身の県民の皆さんも同じ経験をなさっていると思います。その文化の異同を自覚することによって、それぞれの国に新たな息吹となると思います。

異国での生活は心細いことが多いと思いますが、相互に尊重・尊敬し合いながら交流を広めることができればと思います。大震災・原発事故の被災で大変な福島県ですが、外国出身者にとっても、最も住みやすい地域にしていきたいと夢をもっています。



福島県国際交流協会理事長  
今野 順夫



私たちは、賛助会員(団体)として協力しています。  
(平成27年9月~12月末受付分)

伊達市国際交流協会

会津喜多方国際交流協会

ふくしま子どもの日本語ネットワーク

 MCS 株式会社 本宮会計センター

福島県商工信用組合

田村市国際交流協会

日本赤十字社福島県支部

ふくしま・ベトナム友好協会

川俣町国際交流協会

 福島民報社  
<http://www.minpo.jp/>

法務大臣告示校:福島日本語学院

会津坂下町国際交流協会

にほんまつ地球市民の会

福島県国際理解教育研究会

公益財団法人福島県産業振興センター

吉野建設株式会社

南相馬市国際交流協会

あづま脳神経外科病院

国際ロータリークラブ第2530地区  
インターアクトクラブ

福島県南土建工業株式会社

郡山ユネスコ協会

会津バスグループ  
会津トラベルサービス株式会社

## (公財)福島県国際交流協会は次の基本理念の下に活動しています

### 心と心でつながる、世界に開かれたふくしま

このグローバル社会において、本協会は、これまでの国際交流活動を礎に、県民と多様な価値観と言語を持つ世界の人々が、真に対等で良好な関係を築きながら、地域の活力につながる、世界に開かれた福島県の実現をめざし、様々な事業に取り組みます。

### —基本方針—

- 1 世界に開かれた県民意識の向上を推進します
- 2 外国出身県民とともに創る活力ある地域づくりを推進します
- 3 多様な関係団体と連携した国際交流活動を推進します
- 4 世界に向けて福島を発信します (第4期運営基本計画より抜粋)

## 賛助会員を募集しています

当協会は、国際交流を通じて地域の活性化とより豊かな県民生活を実現するため、様々な事業を行っています。当協会の趣旨に賛同し、会費という形で当協会の活動をサポートして下さる「賛助会員」を募集しています。

### ■年会費

個人会員 3,000円/口

団体会員 10,000円/口

■振込先/公益財団法人 福島県国際交流協会  
郵便局口座[02130-2-15560]

### ■会員の特典

- ①当協会主催事業をはじめとした国際交流・協力に関わる様々な情報を掲載した広報紙Gyro(年2回発行)をお届けします。
- ②当協会所蔵の書籍や資料、ビデオを無料で借りることができます(一部貸出しできない本もあります)。
- ③団体会員については、広報紙Gyroで団体名をご紹介します。

### ■所得控除

当協会への賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

## 外国出身者のための相談窓口

当協会では、外国出身者のための相談に多言語で対応しています。相談は電話と面談で行います。秘密は厳守しますので、安心して相談してください。なお、相談はカウンセリングとは異なり、相談者が自分で決定・選択できるような、様々な情報や選択肢を提供いたします。

### ■英語・中国語・日本語

火曜日～土曜日 9:00～17:15

### ■タガログ語・ポルトガル語・韓国語

木曜日 10:00～14:00(但し、第4・5木曜は事前予約が必要)

相談専用: TEL 024-524-1316

FAX 024-521-8308

E-mail ask@worldvillage.org

## 寄附金を募集しています

当協会では、県民の国際交流に関する幅広い分野の活動を促進することにより、世界の人々との友好親善と相互理解を深めるとともに、多文化を持つ県民がともに生きる活力ある地域及び豊かな県民生活の実現に寄与する事業を行うため、皆様からの寄附金を募集しています。

寄附をしていただける方は、所定の「寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、持参、メール、ファックス又は郵送にてお申し込みください。申込書を受領後、振込用紙をお送りいたします。詳細につきましては、当協会HPをご覧ください。直接お問い合わせください。

## FIAメールマガジン登録のご案内

当協会では、国際交流に役立つ様々な情報などを提供するメールマガジンを月2回発行しています。登録・購読は無料です。皆さまのご購読をお待ちしています。

### ■登録方法

当協会のHPのトップページにあるメールマガジンのバナーをクリックし、メールマガジンサイトにある入力フォームに、登録したいアドレスを入力してください。登録後に仮完了となり、アドレスに認証メールが送られてきます。認証URLをクリックして、登録を完了させてください。

## 公益財団法人 福島県国際交流協会

TEL:024-524-1315

FAX:024-521-8308

E-mail:info@worldvillage.org

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1

福島県庁舟場町分館2階

公益財団法人福島県国際交流協会内

